























# 業種別景況予測

## 2026年4月～6月

							
		特に好調	好調	まあまあ	やや不振	不振	きわめて不振
部会	1～3月 (実績)	4～6月 (見通し)	コメント(抜粋)				
寝装 リビング			「各工程で残っている企業は1社から2社程度であり、仮にそれらの企業がなくなれば、業界全体の維持が難しくなる状況である。いわば“限界集落”ならぬ“限界業界”といえる。(毛布製造業)」 「中東情勢の不透明感が強まっており、原材料等の値上げも散見される。今後は、各種単価の上昇分を製品価格にどこまで反映できるかが課題である。(毛布製造業)」とのコメントが寄せられた。				
繊維 ファッション			「昨年度と比べ益々厳しい業界である。(繊維加工業)」 「円安の影響により、対応に苦慮している。(繊維品卸売業)」 「業務用製品の需要は横ばいで推移している。一方で、一般家庭用製品の需要は大きく減少し続けており、関係先の中には廃業する事業所も出始めている。(繊維品卸売業)」 「景況が好転する兆しは、いまだ見えていない状況である。(セーター類製造業)」とのコメントが寄せられた。				
工業			「今後、お客様都合による発注キャンセルが多発する可能性が高い。景気の先行きが見通しにくい状況であり、中東情勢の改善に期待している。(化学工業)」 「鋼材の値上げに加え、外注加工費の値上げも続いている。(化学工業)」 「今後、原材料価格や副資材価格の値上がりがあり、販売単価へどのように転嫁できるか心配している。(鉄鋼業)」 「中東情勢により、溶媒関係、ポリエチレン製品、梱包資材、フィルター類の値上げが生じている。(化学工業)」とのコメントが寄せられた。				
建設			「人材不足により、対応に苦慮している。(警備業)」 「中東情勢による原材料の高騰が著しい状況である。(建設業)」 「中東情勢の影響で、様々な資材の納期や価格に悪い影響が出ている。(総合工事業)」とのコメントが寄せられた。				
運輸倉庫			「中東情勢の影響で、フィルム等の部材がショート傾向にある。昭和のオイルショックのようなことにならないければよいが、不安である。(倉庫業)」 「商品の動きが悪いままに感じる。包装資材の値上げ要求があり、すべてにおいて値上がりが多く、苦しい状況である。(倉庫業)」 「中東情勢の影響により、業界全体が悪化している。(運送業)」とのコメントが寄せられた。				
金融理財			「景況に大きな変化はない。(不動産賃貸業・管理業)」 「契約を控える動きが顕在化しつつある。(生命保険業)」 「人手不足により、対応に苦慮している。(税理士事務所)」とのコメントが寄せられた。				
一般商業			「スーパーがなくなり、人通りも少なくなってきたので、業界に関係なく、空き店舗をなくすようにしていただきたい。(菓子小売業)」 「梱包資材に数量制限があり、値上げもあるため、今後が不安である。(菓子小売業)」 「厳しい状況には変わりなく、利益が出にくい。(がん具・娯楽用品小売業)」とのコメントが寄せられた。				
サービス商業			「物価高により、大変厳しい状況である。(喫茶店)」 「昨年と比べ、バスやホテルの予約が取りやすくなっている。中国人観光客が少ないためと思われる。(旅行業者代理業)」 「現政権以降、入管法は厳格な扱いになっているものの、日本での就労希望者は増加傾向にあり、留学希望者も同様に増加している。(教育業)」 「中小企業でも、デジタル化やITへの投資・取り組みのニーズが増えていると感じる。(ソフトウェア業)」とのコメントが寄せられた。				

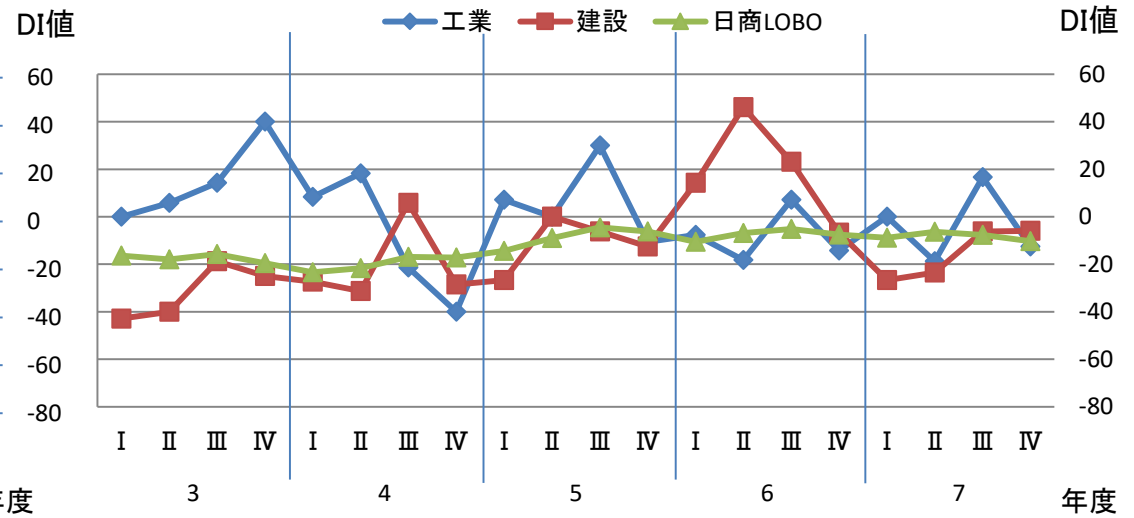
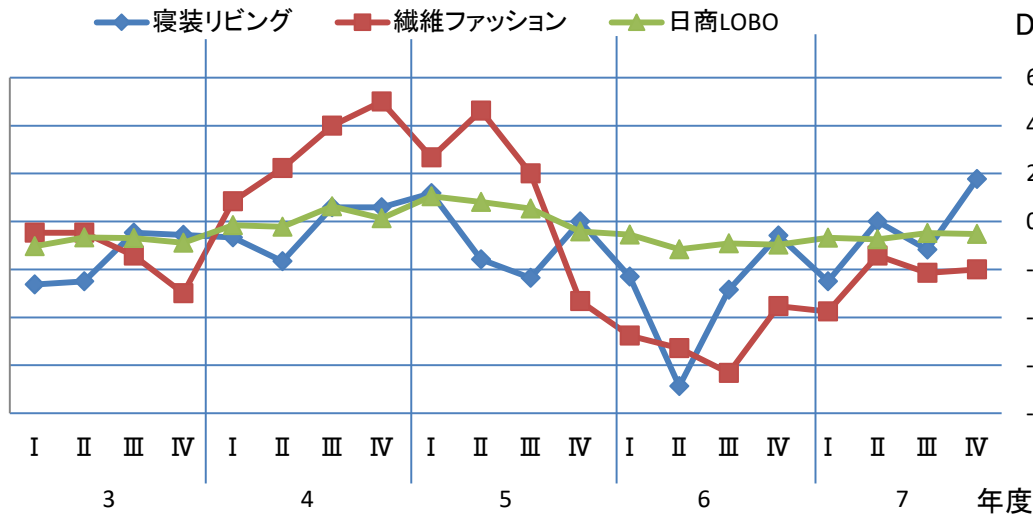
(調査概要) ●調査実施 令和8年4月 ●調査対象企業 280社 ●回答数 128社

管内企業が「景況」をどのように予測しているかについて、売上状況をベースに四半期毎に調査しています。その際、前年同期の業績が極端に落ち込んでいたため、その反動(ベース効果)で前年比のDI値が跳ね上がって見える場合もあります。各企業からの実際のコメントを参照いただき、各々の業界対策・企業経営の一つとして参考にしていただければ幸いです。

～調査機関～ 泉大津市田中町10番7号 泉大津商工会議所 経営支援課 TEL 0725-23-1111

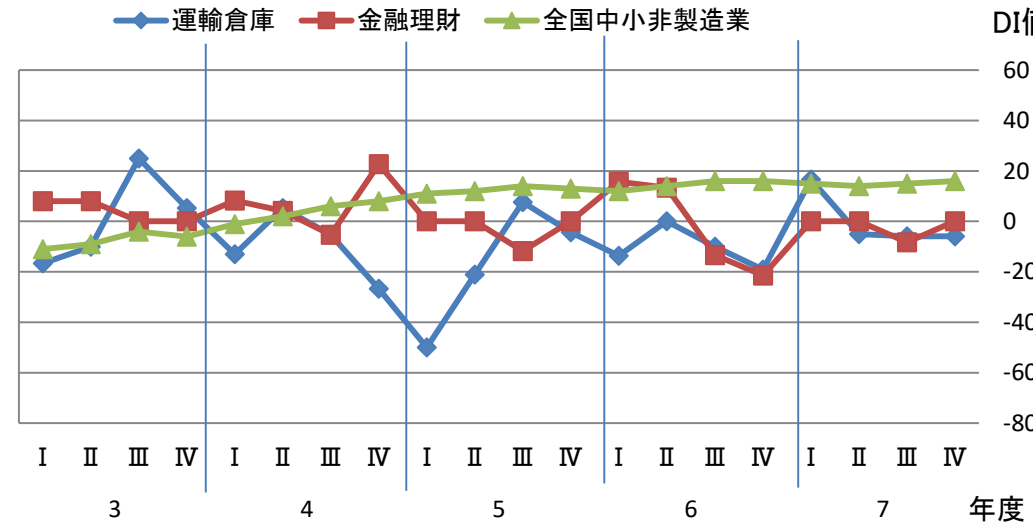
**前年同期と比較**

泉大津の全産業のDI値は改善となっている。日商LOBOの全産業のDI値はやや悪化となっている。



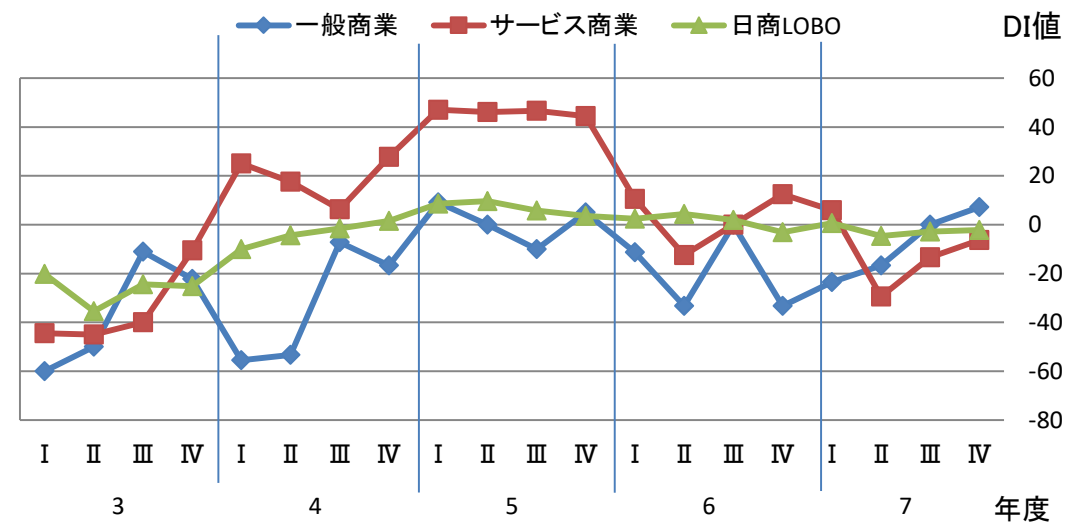
**前年同期と比較**

寝装リビング業・繊維ファッション業ともに改善となっている。



**前年同期と比較**

工業・建設業ともに横ばいとなっている。



**前年同期と比較**

運輸倉庫業・金融理財業ともに改善となっている。

**前年同期と比較**

一般商業は改善、サービス商業は悪化となっている。

※DI値: 売上状況の回答 (増加-減少=DI値)

※R3 新型コロナウイルス感染症拡大

I = 第一四半期 (4~6月)

II = 第二四半期 (7~9月)

III = 第三四半期 (10~12月)

IV = 第四四半期 (翌年1~3月)

⑦ 全国中小非製造業の調査方法は、前回調査(12月)との対比です。